

安全なまちづくり（防災・減災）

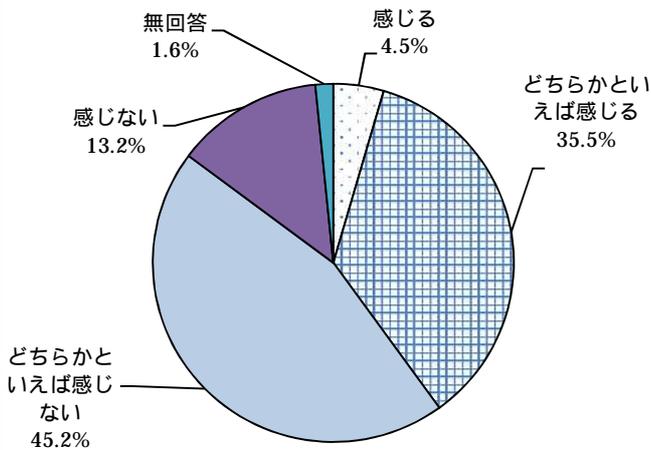
【めざす状態】

- 区民だれもが日頃から防災を意識し、家庭での備蓄や適切な初期行動、避難行動をとることができる状態。

【区の現状】

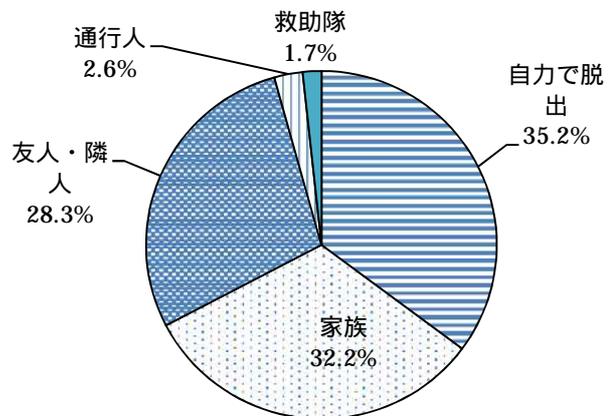
- 区役所や地域が行う防災訓練、学習会、イベント等において幅広い年齢層の参加者を取り込むような効果的な周知・啓発が必要。
- 自助・共助のための心構えや備えの重要性について、継続した周知・啓発が必要。

災害に対する鶴見区全体の危機管理の取組みが進んでいると感じる区民の割合



R 元 区民アンケート防

阪神・淡路大震災で家具や瓦礫の下敷きになった人は、誰に助けられたか



H30 防災白書

防災意識の向上（自助）

課題

- 発災直後において、自身と家族が助かること（自助）の重要性について引き続き周知していく必要がある。
- 自助のための具体的な方法や備え等を、子どもから高齢者まで分かりやすく伝える必要がある。

具体的取組

区民の防災意識の向上と、自助とその後の共助の重要性の理解に向け、参加者と直接対話のできる出前講座や、学校において防災授業を行うことにより、子どもを交えた家族間での防災にかかる啓発、広報つるみ防災特集号の発行により区民に対し広く啓発を行う。また、転入者には引き続き防災マップ、市民防災マニュアル、ハザードマップを転入者セットとして配布することで啓発を行っていく。

- ・ 出前講座の実施
 - ・ 安全・安心フェスタの開催による幅広い年齢層への防災にかかる啓発の実施
 - ・ 小・中学生、高校生を対象とした防災学習会の開催
 - ・ 広報つるみ防災特集号の発行及び内容の充実
 - ・ 防災マップ、市民防災マニュアル、ハザードマップを転入者へ配布
-
- ・ 前年度から継続して実施する事業
 - ◆ **新規項目** 下段の>以降は区政会議で委員の皆さまからいただいた意見

地域防災・減災力の向上（共助）

課題

- 発災直後、近所や地域の方々に初期初動、避難誘導、避難所開設などが自発的に行え、災害時に円滑に助け合いができるように、日常的な地域でのつながりづくりについて備える、共助の視点を盛り込んだ防災意識の向上が必要である。

具体的取組

区民の共助に向けた防災意識の向上のため、地域と区役所、関係機関、学校等が連携した実践的な訓練等を行う。

- ・ 地域による避難所開設運営訓練の実施の際にコロナ禍を踏まえた振分受付、一般スペース、療養スペースの受付や各スペースの運営訓練の実施
- ・ これまで地域の防災訓練等にあまり参加してこなかった方の参加を促すため、学校と連携し、小・中・高校の生徒を通じて地域の防災訓練の実施を周知するとともに、地域の一般の方が参加しやすい訓練内容となるよう地域において訓練内容の検討を行う際には危機管理室地域防災力向上アドバイザーを同席させるよう引き続き地域に働きかける。
 - 垂直避難や分散避難を可能とするような対策を町会ごとに講じるほうが良い。
 - 区役所から町会長や防災リーダーに対するきめ細やかな相談対応や指示を行われたい。
- ・ つるみんピックの開催による地域防災リーダーの技術向上
- ・ 災害時地域貢献協力事業所の情報を地域と共有し、協力事業所に訓練参加を呼びかける。

- ・ 前年度から継続して実施する事業

- ◆ **新規項目** 下段の➢以降は区政会議で委員の皆さまからいただいた意見

区災害対策機能の強化（公助）

課 題

- コロナ禍に対応した防災資機材の充実が必要である。
- 区地域防災計画など、区が行う取組みについて情報発信の強化が必要である。
- 区全体の防災力の強化を図るため、区災害対策本部と各地域の自主防災組織等との連携・強化に努める必要がある。

具 体 的 取 組

コロナ禍に対応した防災資機材の充実や災害時の体制の整備を図るとともに、区が行う取組みについて情報発信の強化に努める。

- ・ 区民に対し、災害時に取るべき行動や災害情報を得るための通信手段等、防災情報の広報の強化
- ・ 区地域防災計画などの取組みについて情報発信の強化
- ・ 区災害対策本部の整備・強化及び各地域の自主防災組織との連携
- ◆ コロナ禍での災害に対応するために、各避難所の備蓄品として消毒液、マスク等を確保し、避難所に設置するパーテーション等保管場所の確保が難しい資機材については計画的な確保・充実を図る
 - コロナ対策の事前準備が必要ではないか。

- ・ 前年度から継続して実施する事業

- ◆ **新規項目** 下段の➢以降は区政会議で委員の皆さまからいただいた意見

安全なまちづくり（防犯・交通安全）

【めざす状態】

- 犯罪や交通事故のない、だれもが安全・安心に暮らせるまちになっている。

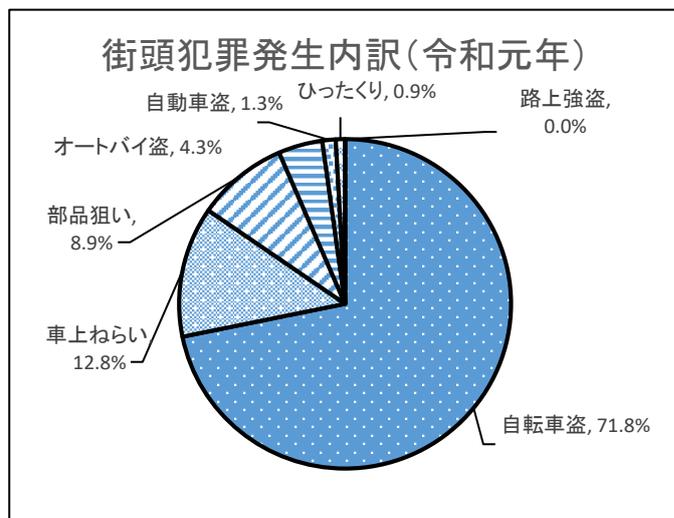
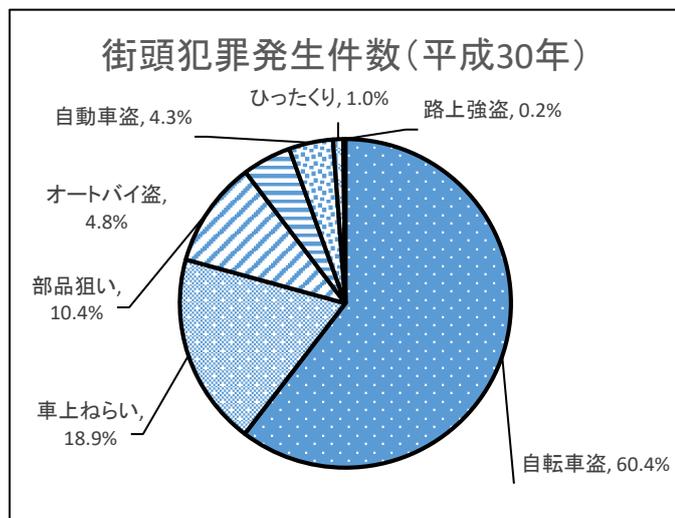
【区の現状】（防犯）

- 鶴見区の街頭犯罪発生件数について、平成30年に比べ、令和元年は減少しているが、引き続き減少に向けた取組みが必要である。
- 令和2年（1月～7月）の街頭犯罪件数は238件で、令和元年（1月～7月）の298件から60件減少し、約20.1%減少している。
- 鶴見区の特種詐欺認知件数について、平成30年に比べ、令和元年は「オレオレ詐欺」は減少しているが、「キャッシュカード盗」が増加しており、減少に向けた取組みが必要である。
- 令和2年（1月～7月）の特種詐欺件数は4件で、令和元年（1月～7月）の18件から14件減少し、約77.8%減少している。

【街頭犯罪発生件数】

	路上強盗	自転車盗	車上ねらい	部品狙い	オートバイ盗	自動車盗	ひったくり
平成30年	1	376	118	65	30	27	6
令和元年	0	403	72	50	24	20	5

（件）

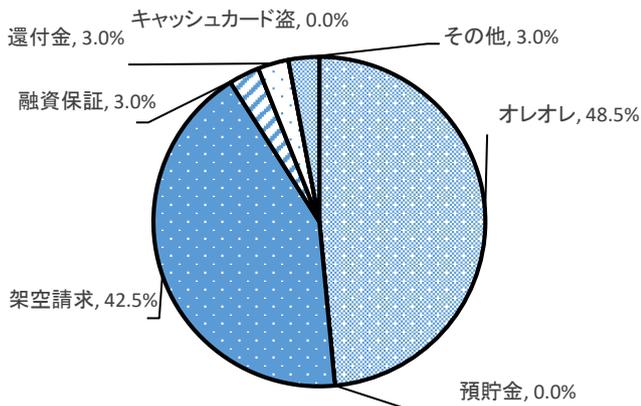


【特殊詐欺認知件数】

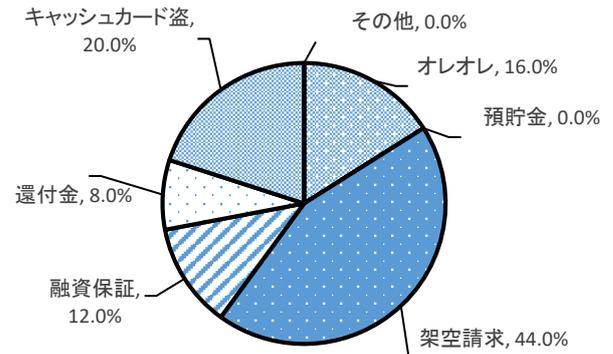
	オレオレ	預貯金	架空請求	融資保証	還付金	キャッシュカード盗	その他
平成 30 年	16	0	14	1	1	0	1
令和元年	4	0	11	3	2	5	0

(件)

特殊詐欺認知件数(平成30年)



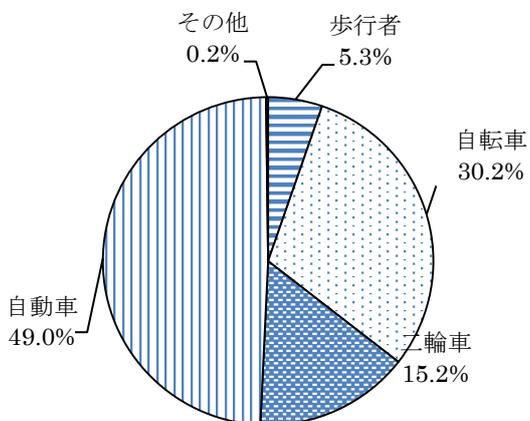
特殊詐欺認知件数(令和元年)



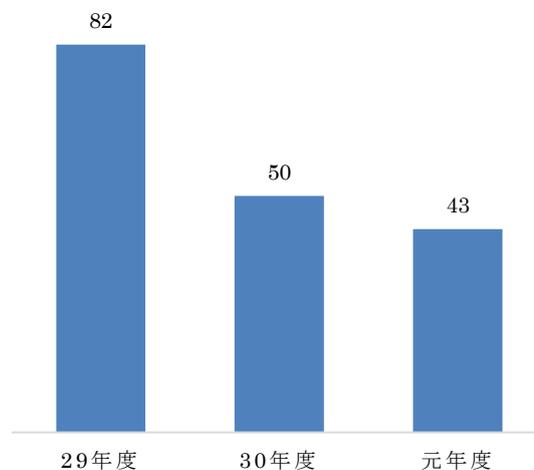
【区の現状】(交通安全)

- 交通状態別死傷者数を見ても 30.2%が自転車に関わるものとなっている。
- 放置自転車台数は毎年減少しているものの全く無くなったわけではない。

交通状態別死傷者割合(鶴見区)
令和元年12月末現在



鶴見区内放置自転車台数



地域・関係機関と連携した防犯対策事業

課題

- 車上ねらいをはじめ、部品狙い等の街頭犯罪 6 手口は減少傾向にあるものの、「自転車盗」は増加に転じ、依然として、街頭犯罪は発生している。
- 特殊詐欺認知件数は、平成 30 年に過去最悪の件数を更新したが、現在は減少傾向にあるものの、手口のうち「キャッシュカード盗」が増加している。

具体的取組

- 街頭犯罪発生件数の減少をめざした様々な取組みを行い、防犯意識の向上を図る。
 - ・ 防犯カメラの設置や取替
 - ・ 区内防犯活動
 - ・ 自転車 2 重ロック鍵取付キャンペーンの実施
 - ・ ひったくり防止カバー取付キャンペーンの実施
- ◆区役所庁舎前照明灯を活用した防犯標語のバナー設置
- 特殊詐欺認知件数の減少をめざしたさまざまな取組みを行い、特殊詐欺の手口の傾向や高齢者を意識した被害防止啓発を図る。
 - ・ 区役所安全対策職員による青色防犯パトロール車を活用した注意喚起
 - ・ 防災行政無線を活用した認知状況の情報提供や注意喚起
 - ・ ホームページやツイッターなどの SNS や、広報紙を活用した被害防止啓発
- ◆専門的な犯罪心理学の文献等を参考とした特殊詐欺防止啓発動画の活用
 - 心理の専門家の助言などを聞くことはできないか。
- ◆電柱や NTT 柱を活用した特殊詐欺注意喚起シートの設置
- ◆各種キャンペーン時での特殊詐欺防止啓発活動

- ・ 前年度から継続して実施する事業

◆ 新規項目

- 以降は区政会議で委員の皆さまからいただいた意見

地域・関係機関と連携した交通安全

課題

- 自転車利用者のマナーアップについての取組みを、引き続き推進する必要がある。
- 放置自転車について引き続き動向を注視していく必要がある。



具体的取組

- 交通事故防止や自転車マナーの向上をめざし、さまざまな啓発活動等を行う。
 - ・ 子育て層への交通安全教室の実施
 - ・ 園児への交通安全教室の実施
 - ・ 警察署、区内の高校生と協働した自転車マナーアップキャンペーンの実施
 - ・ 地域・関係機関と協働した放置自転車啓発活動
 - ・ 区内駐輪場マップの作成、配布
 - ・ 地域からの要望に応じ、高齢者交通安全研修会の実施
 - ・ 高校生への自転車マナーの啓発

・ 前年度から継続して実施する事業

◆ **新規項目** 下段の>以降は区政会議で委員の皆さまからいただいた意見